

<金標準、陰の極入り・・・>



(出所：オアシス)

米国とイランの停戦協議は水面下でパキスタンが仲介を模索しており、トランプ大統領も協議を認めているが「合意するかは分からない」と発言している。特にイエメンの武装勢力フーシ派は紅海でサウジアラビア船籍のタンカー2隻を攻撃し、WTI 原油先物価格が93.27ドルまで高値を試すなど、インフレ懸念を高めている。また週間新規失業保険申請件数が18.7万件へ減少するなど雇用情勢は堅調であり、FOMCにおける利上げ確率を引き上げるなど、「金利を生まない金」にとって投資妙味が後退する動きに思える。しかしNY金も4000ドルで抵抗を見せるなど、下げ渋る値動きを続けている。そのため金標準先物も21000円で下げ渋りながら21500円以下では抵抗を見せている。特にトランプ大統領はイランに対して不信感を高めており、大規模攻撃を実施する可能性が高く、更なる原油価格の上昇が起こる可能性は高いが、21000円を下回る事が出来ないと金標準先物は、売り要因に反応しない「陰の極入り」と判断するのが妥当に思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルも上昇している。RCIは短期が上昇し、長期も上昇している。特に指数平滑移動平均線のレンジが縮小し、日足がレンジ離脱を示す21954円を超える様であれば、底値確認の値動きに変化すると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,275,000 円(2026 年 7 月 27 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 7 月 27 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>